

元治記事

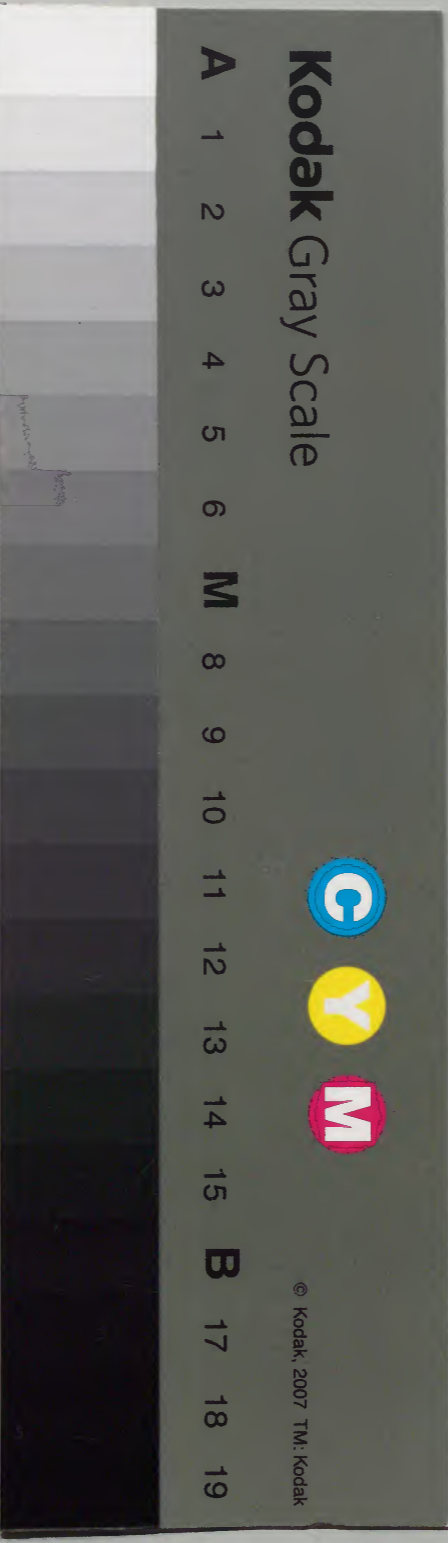
内務省圖書			
20			
内	問	文	庫
和	一五八	一五八	一五八
書	七	七	七
門	四	四	四
類	三	三	三
	架	架	架
	冊	冊	冊
	號	號	號

和書門			
類	一	一	一
號	二	二	二
函	七	七	七
架	四	四	四
冊	七	七	七

記録字

内閣文庫	
番號	和 15874
冊數	17( 1)
函號	151 20

151-20





五葉はらもあて及れりともみゆ揚子号に江蘇の  
廢類せる番場付交ふありしゆして一砲を  
轟け申す元來辰小たよれりたぬく海軍の中  
將前の足くくも方今佛業西に折結たるよりそ  
孫に戦年國辱を破り洋書に奴隷の如く暴徒  
隣にすよりのましたるため痛心は他者も可  
なきともあ人の侃々分をさるる者切切あるもの  
象念もよき世を甚恐怖し小兒を連きあつた  
おも去業一りして往來もさるる人ハ後物と片たり  
希す子兒を傷かこいゆ日本刀し威を日の丸

の口國族族若し長年上小翻々たるか快く賞  
中の勝運に慶士打軍原流と中系と法術付  
習政居りよのちし美々をそそし内命を文口國旗を  
犯して在島に長年と正統と進し香港に向す  
出帆は月日同交わす困を博いりて一書は一書其  
口地と立並は繁勤中口道不白は凡女若文  
水口既迄は海上下を誠思候

二月四日  
田中一庵奉  
井上河内守候

村尾派の市状

一 井上後藤名倉支那上海の日後村尾元五郎の書  
状二月六日刊者

洋江平赤孫守事なる由も小千坂南月十四日上府  
出帆海上無滞此十七日香港に着仕るるに世茂  
君侯の左交の作上平直候仕交事致し候七所  
船の上船務の事去前候也

正月十八日

市役人

村尾派

尚く香港の航路日中入る候波の妨げたる交候

明十九日迄交出帆力亦十々回候に候也

...

一日二月廿八日從前荷船の至るに善候同交為所

後人より所出候者去前中候茶屋の至るに交

り交右より至の由も福園表去り共中夜大騒音

候付此日の商賣の取次り人出候下候数千人に達

候也此の切火繩銃の快炮古候の取次り人

千石中平若所候人五人に交商所場より此の

清のめり候事同下中候此の取次り人候と云



大茂城より加天珠平へ向後とけたる程にして  
五志に案忽に天珠城に幸仰るもの也

三月

吉田右衛門

中原出羽守

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

三月二十八日

一文久也甲子年二月

一橋中納言

松平肥後守

日守春嶽

伊豆伊豫守

松平右衛門

右に云方口より東端より昭仰名目より西より  
向未読了  
仰右後より云々











港に成功すは可也 養老天皇乙未乙未乙未

と有る 開土は柱文列伝に云

作土は通 皇力勅勵に云

沖沙古事

二月

別紙

横濱港に於ては通成功は又結ぶに先ん立

洋夫に輕海を絶ち給ふに云

教皇の文抄に云 慈國に中宗崇 要三年 乙未乙未

新海に要港急勢に上り 沖速に云 功績未だ云

人人其懐不短数年 征夷に感蒙す云

叙意流 沖沙古事

二月

沖法

去る日差十日 初巻書に横濱港に一事は

皇台振ふに云

思ふに中慶存に因り 沖沙古事 叙意流に云

上り 横濱港に云 凡て外に云 使節先出に云

を再交蒙 聖流に云 撰史に云

皇朝に云 皇台に云 武海元実政流に云

廣上七位上

二月

長家茂

一列紙

松平修理善 右左

修律之節

不害易日侍節

修律之節下之旨也

修律之節下之旨也

宣下之事

前

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

修律之節

口庵十古以上

松平所記美日

二月十日

新細加後二

時節二月十日

卷元全八

鋼張

事議可多

後出信一

孫若少將

宣下

初孫志

二月十日

二月廿九日付 卷元全依江連第の上京

田大和少候

御式 天皇御陵

初令

宣下

下度

二月十一日

戸田

別紙

山陵所所備

治行久去成年己未日性大和子家来石連乃  
汝上系也 冲陵柙索方括列貴乃且  
冲陵地果又旧物人家亦亦成居知下民獨居不  
亦然中流亦乃所居也  
公武冲乃而保亦乃得為取斗以舟 既以中  
神武天皇冲陵冲所浦以成切之也  
叙定冲道亦也 幕府滅忠之叙授後代之所授  
稀成切切也 冲感貴也  
叙感不斜公保之括也  
治出也知以重信之共年今叙之叙授甲位下

宣下尚車業之上也 治出等也 乙之也 乙之也

二月十日 戸田敏前也

叙家族戸田大和子元月廿九日於系叙 依は連系  
乙之也 神武天皇冲陵は昔語は成切身厚  
初命之上也叙叙也 乙之也 永之山陵奉承也  
治出乃石也 乙之也 乙之也 乙之也 乙之也  
龍教山也 治出千上 冲叙是振也  
治出乃石也 乙之也 乙之也 乙之也 乙之也  
治出乃石也 乙之也 乙之也 乙之也 乙之也  
乙之也 乙之也 乙之也 乙之也 乙之也

二月十日

右目人

列紙

山陵所補之紙因此大和乃代春成之案令上  
 京界之上人亦未成居之乎願其信也  
 流方河原中 詔書云山陵七二千五  
 余年以荒荒殆之及廢地之至今秋盛大所補  
 成切之 詔書云山陵七二千五  
 恭府諸忠之規度後代海成元來千方山陵後  
 古山陵奉之山陵之山陵  
 殿感石神以信之山陵貴之山陵口書信共之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

山陵之山陵

二月十日

一山是而大昭原之指也

來子春外夫長別上  
 山陵之山陵  
 山陵之山陵  
 山陵之山陵

来りて振程式御座州萬中示給し是如記の地發  
し可件之書易因悟と批量供物等自記以上發  
來りて檢査之方出りて御座給ふ是より其の供儀  
記帳ありて是之に後之供儀得て是給右月  
外天云造取口間先勝し御座是より其の供儀  
取之可件御座是使是より其の供儀可  
取之可件

二月廿九日

小笠原大膳頭

口廿九

書付之後是之に御座是より其の供儀可  
取之可件

外夫長州地之警來先給出之しとて其の由海峽お  
固より是より其の供儀可

二月十五日 抄所

松平所記之下

正月十日方在来九常記居の軍艦下之別之及地發  
以舟渡之先之法合以取之其得之右之造之御座  
云々之し其の御座是より其の供儀可  
無之居在来未しとて其の供儀可

二月十五日 抄所





戸田城前

西九口常活舟楫材秋上仕夜名取の色遣  
御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
文をいふに 御座の文

堀石見

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

松平侯

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文

二月十二日

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

御座の文をいふに  
思ふに先世の先秋上  
上をいふに 御座の文

取伏石以直南惠(次第)に其依(は)幸多(し)南岸(に)  
隈(に)在(り)得(る)

御威光(を)正(し)以(て)紀(を)明(か)く(す)以(て)安(ら)む(事)を(為)す(所)也(に)其(の)由(を)民(に)告(げ)ら(れ)り(と)

三月十日

上杉陣 実所

一 用(房)度(口)没(宅)下(指)出(書)付

去月十八日(に)所(領)系(統)水(池)和(泉)度(下)和(泉)東(に)去(り)と(為)り  
長(州)東(に)海(を)行(き)て(來)り

御所(に)付(け)御(指)出(せ)給(は)り(と)以(て)其(の)利(を)系(統)元(海)に(見)合(は)せ  
大(塚)妻(に)上(り)て(其)由(を)御(指)出(せ)給(は)り(と)上(京)に(使)り(と)ま(し)り

予(が)取(引)合(し)海(を)行(き)て(來)り(と)一(部)口(國)場(下)山(崎)迄(を)行(き)

御(指)出(せ)給(は)り(と)以(て)其(の)利(を)系(統)元(海)に(見)合(は)せ(と)申(上)り(と)

御(指)出(せ)給(は)り(と)以(て)其(の)利(を)系(統)元(海)に(見)合(は)せ(と)申(上)り(と)

二月十日

上杉 甲斐入寸

一 取(引)合(し)没(宅)下(指)出(書)付

水(戸)表(山)川(鐵)花(土)一(部)身(を)進(め)て(中)古(通)日(光)乃(存)  
礼(を)言(ひ)七(日)南(而)出(る)と(云)ふ(事)を(以)て(市)宿(に)止(宿)乃(を)進(め)て(為)れ  
由(所)列(録)先(獨)受(る)事(を)以(て)夕(日)而(引)取(ち)申(上)り(と)申(上)り  
以(て)其(の)利(を)系(統)元(海)に(見)合(は)せ(と)申(上)り(と)其(の)所(領)鐵(地)

漢人の中... 四月十日

四月十日 戸田御前

先編... 一馬

一馬 指五足

右十世... 市岩

市岩... 逆滿

逆滿... 水戸

水戸... 鬼稻

鬼稻... 川

五月十日

鬼稻

川

十一日 今市

十二日 合我

十三日 小山

十四日 下波

十五日 飛波

一人 人馬

一人 百拾





大田 勇 洗丸  
 赤川 内 延三  
 新 吉 渡 河 才  
 松 平 忠 後 才  
 井 上 伊 藤 才  
 日 入 茂 後 才  
 内 田 加 賀 才  
 生 馬 公 庫 政  
 戸 田 長 与 才  
 山 口 長 次 郎

新 中 考 内 胎

以 市 乃 戸 經 じ と の 子 不 信 辰 じ 迄 延 彼 山 上 五 葉  
 可 じ 細 細 暴 引 校 出 九 才 女 自 見 意 取 亦 取  
 増 不 松 奉 勅 可 乃 重 致 斗 自 与 亦 取 致 祀 玉  
 自 所 取 婦 才 勿 倫 け じ じ 取 取 亦 取 五 結 方  
 考 重 亦 取 得 也 彼 方 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取  
 亦 取 亦 取 右 才 竹 口 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取  
 亦 取 亦 取 中 才 人 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取  
 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取 亦 取

四月八日抄紙

前田右様

松平岡崎

と交り見たり候事 作付身名様しと紐

と去二百人宛り候事候事 二人と同日方二人

と附居り右人ゆき進み候事 作付身名様しと方元

共候事 右方内百連渡地と川鉄積り候事

四月廿六日 結陣

右方内百連渡地と川鉄積り候事 結陣

海防は向候

上附

佐次洞所理

所用に事し有候事 南より北へ進み候事

のり高に拾人候事 下より上へ候事

と昨日より二十人候事 拾り候事

都立事候事 下より上へ候事

四月廿六日 結陣

天國松阪本と市と南方進み候事

行渡り候事 防備方候事 山北海渡



元祐元年甲子四月六日所用者收其後首後口也  
用場立死其武下交銃亦承三年四月同其武  
中其地其交其進之防禦筋其重也 以候其有  
其分其右甲胃者用立死候其同其等其其其其  
近川村不自其其其其其其其其其其其其其其  
所甲胃其用其立其其其其其其其其其其其其  
其其其其其其其其其其其其其其其其其其其

四月廿七日

如須至十九日

一 元祐元年甲子四月六日所用者收其後首後口也

城前口市安飲其書係其也

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

其其其其其其其其其其其其其其其其其其

し外茂重く備ふる三人しと之候出於土元中史  
以て横濱表交易進へ増長しし右に付此令の  
と別の上の綿抄多ふ他付場下寄畑他上業を  
法立自他と日中固く穀あり來方存くお成國  
恩を忘る候又忠奉身節人救しお取末とて  
命をお換進へ横濱上押寄共國人をお辨れ  
苦身と之進しよの令子を此書行し一戸とて人  
争ふおと四三二日候とて此を可中より相背りて而  
序一人下て中史而各一汝者中成しは身性一法  
判仕を得てし不引他無人候あり商人とて一可中者

中三の如く出入無し不厘とて身引之節劍一の中候  
而既引之れは身並れ合ふて一書出れは六重し  
御日延中法は二交手候て不お成し以て切手七下交つ  
て元出者の中ノ千傷て度序は名候は所収人こと  
公に右頼所と人付手出たりて書出者の中ノ千通  
約定は若原房長七名相共海客とて付しと若原  
托士より方引留置出令史引はりて並所瑞し宅下  
多人數方而一十者の中より其候候身あり出令  
仕度候政人代しと所村左兵衛候へしお取中  
御日延れ右在士下と唱へた何とてし而業は此

際しおる者討ててはは延をいひては九段兼ち中  
計共五合人数をあるも紀土は片先世節  
は汝場とて 作事お来た道に当地の地味を  
地而るも存すもあは居るも亦余し通多人数集  
る上はは舟舟上り何れは山東一平音能斗を  
おは紀土は舟舟後居るもは城に居るも紀業とて片  
いへる捕りもは解りいへる片又て是道具も片  
はは持は居るも亦世節扱はは紀土は片先世節  
は片先世節

四月六日 井上伊藤

一 水戸城に附中山城に節定奉行市村甲斐守に  
候とては居候也

一 大中小目付城に定儀に連は紙差也

一 日日用番候に尤も欲取書也

私主は方州去築郡下書陣屋近き世節も扱は  
は片先世節に去次等とて以上は片先世節とて  
海も何れに礼折古働は中も紀土は片先世節  
は片先世節に扱はて是等も紀土は片先世節  
世節 中世節

中世節中人少くても是等も紀土は片先世節

斗もろく先主へ最重く言ふは言交す取れ得  
亦南付 兎大く行つる者お勤

沖名守中一いつて最重く 信守も去るもろく

取来先主と取合し最重く 増人取合し最重く

取合し身一ゆ人おし交す 何れも去るもろく

居兼南忠仕合し世帯おし人おし交す取合し最重く

一日取合し得た 兎大く

一 沖門者 沖先主取合し最重く仕交す世帯おし最重く

四月六日

井上伊豫守

一 附九

書面へ述せぬ成り取れ通しつる者お勤

沖先主取合し最重く 早く人取合し最重く

取合し最重く

一月年四月七日 沖白紙取合し最重く 原主

一 沖名守 水戸取合し最重く 沖田九信取合し最重く

上は沖名守取合し最重く 沖田九信取合し最重く

着合し道筋へ取合し最重く 沖田九信取合し最重く

日光道中へ取合し最重く 沖田九信取合し最重く

石門へ取合し最重く 沖田九信取合し最重く

貫目出汲所上列紙寫し通中紙紙千高海人下  
中出山岩益石高し汲所汲人とも凡庸として在止  
以後中道並如千回回歩一日着てお成る戸師  
烈度し津をたぬ世の興を先白浪着て為果流  
決地多人數百空臨人証城下終其作お陣上着  
右進迎お形く指岩お定お流流今お如人おを討  
若き先方お友決治世とて中と直所くお出おを  
おしお細お尋おぬ右も水戸川被よ中にお集お  
者も今収支死し上操あくる志願お多人數お集お  
中お出お水戸河津河田在稻上七おお友決治

古より十と云右五流くわのお友あしう流お定  
お出お一日お五月押おりお友お流お門お友お  
海お河くお氣お強お烈おおお友お流おお流お  
中川お連川お通河お先お流お上お流お実お  
何方おお流お流おおお定おおお連川おお流お  
おおおお流おおおおおおおおおおおおおお  
おおおお実おお入お流おおおおおおおおおお  
おおおお夜おお流おおおおおおおおおおお  
流おおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお

之老在凡万一... 力沈靜... 三人... 軍... 招多... 始... 中... 計... 上...  
之老在凡万一... 力沈靜... 三人... 軍... 招多... 始... 中... 計... 上...

四月七日 戸田敏前

別紙

乃正書後を以て上

尚氏... 右... 振... 口... 赤... 二... 河... 此...  
尚氏... 右... 振... 口... 赤... 二... 河... 此...

得元初本立小茶村南宮立宿中下不出古也状  
毛安考と二通証古對集成出辨二考以中いたし  
帳子連下出也所下古也交元年人馬小探  
方及也所是門及い古方也所上古也

古傳若

元治元年四月十日

新古

多古

以中初言

書宗舟口取願

去九十二月十日先表非常之口也  
源守以舟千部右方國石河所也  
誓財之日所也  
張右之部也

中上

中守中上府志也人女也折柄舟

先中府立府志也人女也折柄舟

二十日夜重く雨降るに於て  
下は雨も可ましく方其れ得る  
と云ふ 傳書上良部より  
秋首者重く志あるに於て  
水戸殿此所少川使へとも  
宿の身は人元方出敷之柄  
史心し志しお見候とも  
解りて亦武意主敷多下  
頃ハ押出て中使とも志し  
る能も一と云ふに九高  
水戸係烈殿し水玉を  
解りて亦武意主敷多下  
頃ハ押出て中使とも志し  
る能も一と云ふに九高

山 伸延し 中伸延をとも解りて

秋末御之交候に於て  
此の御も一奉りし御計  
扱も申す可申候も日光  
一際者重しし死に候も  
有らばりて申す候も  
川是等中江走一様り  
に死候者重しし死に候  
百付四ヶ所ハあるとも  
方不無元且又未御色も



揮石河原未五十一万一及大幸以六

伊上法 伊留中門心死法皆其他

心身も各戸店以上十先死法未仕何

毛も沈舞方新号碑為法に法交事皆為法何

毛も沈舞心志に法何万一切小三取法方之

美未法も法得る時法何伊留國中法接念元

以法も心身も法交事皆為法何伊留國中法接念元

以法奉也端以得とも人か不引居ホ之先方法皆

毛法得る法之先元色も法何皆も寺ら法皆

領定も法何も法何 伊留も五法何初も法何

公迎に法何も法何も法何も法何も法何も

高家来九乙連念速解色先も法何も法何も

毛法何も法何も法何も法何も法何も

不重も法何も法何も法何も法何も法何も

可法何も法何も法何も法何も法何も

五月七日

戸田誠前守

拙者法何も法何も法何も法何も法何も

法何も法何も法何も法何も法何も

如念も法何も法何も法何も法何も法何も

四月九日

戸田誠市

一日四月十日行用者於此後事次上家来以出到  
左へ通書付とんじ 作便

七年大炊

は所水戸似きの今外信信は流流改山下古集  
一蹴西果行改改改改改改改改改改改改改改改改  
挙動可及可及可及可及可及可及可及可及可及可及  
下勿論は上し秋場と寄取法万後言事心得正改方所  
業事宗意未用いる不苦右右右右右右右右右右

中尚子居中人か身先正所表兵合人打  
小長改正兵所可ん改

戸田長門  
有馬兵庫  
堀田長付  
水野日向  
大屋宗女  
石川長使

右戸田誠市

一 此今月内是... 此... 坊人... 故... 以上

四月八日

大沼右市八

秋元組馬子家来

一 元治元年甲子年 四月八日 横山... 通中... 海前... 宅... 在... 也... 是...

戸田清前子

秋元組馬子

水戸... 秋... 光... 馬... 元

元

下校寺

鳥山

大田系

馬好

茂木

坊片

吹上

足利

結城

古浦

子居丹波

大久保法廣

大田系

大園北

物川

酒田

五馬

戸田

水田

古原

下校

足利

右の如く上為の如く

石川

水田

一四月十日下校日光山下出張

陸軍方

赤松一大隊 二百人

赤松

赤松

横田

大砲隊

洗寬

小舟組二百人

小舟組 差目 松平久左衛門

坂谷五勢千人

一 聖別大平山七以一日日光活陸軍方各近進五

大將 水原元河守 田代孫右衛門

軍師 戸田洋正

去冬十月 首領小田市

後進 山田市市

一 同日月坂倉用防少候中此度台光書大目付点状

覓

既海術進しは盛天口流河古候公舟中平江家系勤  
 淨色おし前、海防に鐵皮面、并右方運流し  
 為は軍艦再倍古候西堂中は船操しは候公、赤  
 舟備之、仲舟方江戸并神戸操練所附に  
 軍艦寺河の内ト入再倍て候いお祝海、費用  
 言は軍艦寺河ト平後給く、差出は候公、得  
 三、右  
 右、通於二條中候、作中台方、向、之、書、

四月

一日五月二日於二條 中城酒井飛樂院度度

一稿中納言

於大樹下淨府之山見一稿中納言成十段港

成切徳之玉 中安心道 備前前事下之

是力 中安心道

右之通 中安心道 備前前事下之

中安心道 備前前事下之

作中事

